

第 57 回全国学童保育研究集会（20221029~20221030）レポート

【クラブ】（ あおぞらクラブ ）

【名 前】（ 花田 幸奈 ）

① 2 日目に参加した分科会のタイトルをお書きください。

第（ 2-③ ）分科会 （ 学童保育の生活と遊び ）

※全体会のみに参加の場合は、全体会の記念講演のタイトルをお書きください。

② この分科会を選んだ理由をお書きください。

子どもたちが学童保育で生活する上で、中心となっているのは“あそび”です。子どもたちの発達に“あそび”は欠かせないものだと思います。指導員として、子どもの“あそび”を大切に考えていきたいと思い、今回この分科会を選択しました。

③ ③2 日間の全体会と分科会で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

※提出されたレポートは、当会の広報誌やホームページに掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※×切は、11 月 13 日（日）です。常勤・専任指導員に手渡し、または FAX：0564-32-0325 までお送りください。

2 日目の午前中の関口さんのレポート報告では、関口さんが子どもたちと真剣に向き合って保育をされている様子がとても伝わってくるような報告会だったと思います。子どもたちの要望をできる限り実現していきたいという気持ちがあふれていて、私もそのくらい子どもたちに寄りそえているのだろうか？と自分自身の行動を振り返る時間になりました。

午後からのグループワークでは、「異年齢同士のあそびやすい学童保育のルール」「あそびで大切にしていること」「子ども同士をつなげる指導員の関わり」「暇になってしまう子どもへの対応」という 4 つのテーマで交流をしました。どれもとても興味深いテーマでした。その中でも「あそびで大切にしていること」というテーマの話し合いでは、指導員として子どもたちのあそびを見守ることを第一に考えている指導員、子ども目線で思いっきりまずは大人があそびを楽しむと考えている指導員、子どもがあそびの中で主人公になれるようにと考えている指導員、様々なあそびへのかかわり方があるからこそ、子どもたちの思いや状況に合わせて指導員は様々な配慮をしていくことが大切だと感じました。

また、「あそびに参加することでその子の困っていることや、好きなことを知ることができる」と仰っていた指導員さんの言葉が心に残っています。子どもたちを理解する手段としても、“あそび”が大切だと痛感した今、指導員として子どもたちが安心してあそびことのできる環境づくりや子どもたちに合わせたあそびへの介入が必要だと思いました。

交流のある分科会は初めての参加でしたが、様々な地域の学童保育において、それぞれ異なる視点をもった指導員の方の話を聞く機会になりとても有意義な時間となりました。